フリージングな転生者

黒の契約者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
フリージングな転生者

【Ｎコード】
Ｎ８３１８Ｓ

【作者名】
黒の契約者

【あらすじ】
主人公がある人物に転生してフリージングの世界へ
果たして、意中の相手を落とすことは出来るのか！？

ブシドー参る！？

ー主人公ｓｉｄｅー

俺は今、激しいキスをしていた。何にかって？もちろん地面とだよ。

もう、週８ぐらいで愛し合う中にまでなってしまった。

「クッ、私としたことが不覚」

ふと、目を上げてみれば褐色肌に銀髪の女性が腕を組みこちらを見下ろしている。どちらかといえば可愛いと言うより凛々しいと言った方が似合っている…話を戻すがそうなると自動的にこちらは見上げる格好になり真っ白な下着（パンツ）が目に入る。

しかし、あちらはこのこと（パンツが丸見え）に気付いてないようで話しかけてくる。

「お前は、何故私にばかり、近寄ってくる。他にも私よりも可愛い女は沢山いるではないか！？。何故私ばかり…」

褐色、銀髪の女『クレオ＝ブランド』は溜め息をつきながら嘆いていた。

「フッ、今日も白か。お前の髪と肌のようにギャップがあっていいと思うが、そのリボンはどうかと思うぞ。」

「何っ／／お前また、私のパンツを…。フフフフ♪今日は、あばら半分で、許してやる。」

笑顔なのだか笑顔じゃない

自分の体はあらゆるところから危険信号を発していた。顎が震え歯が見事なハーモニーを奏で、背中からは止まることなく流れ続ける汗はナイル川のごとくゆっくり足まで伝っていった。

「第一、情け無いぞ。“アメリカ代表”で唯一の男で、パンドラモードが使用できる奴がこんなヘタレで私のような男女(おとこおんな)を好きな物好きだ　　“と”」

クレオはボルトウエポン『インフィニティファング』を展開し、襲いかかってきた。体に衝撃が走りあばらが確実に数本折れたのを感じ、地面に崩れ落ちた際に取れそうになる“仮面”を抑える。

「全く、私の事好きって言うのならいい加減顔を見せたらどうだ？」

「“私は顔が醜いのでな”」

「…まぁいい。今日も気絶した君の寝顔をゆっくり眺めるとしよう。」

―グシャ―――

予備動作を無くした限りなく極めた一撃は半分以上のあばらを砕いていた。

「“私は君を所望する”」

意識がなくなる前に最後の言葉を吐き出した。もうこれは、遺られ際の決めゼリフと言ってもいいだろう。既に、この言葉を言って言ったのは2桁をこえていた。

（やっぱ、フラグたてんのは難しいな）

その言葉を最後に青年の意識は完全に途切れた。

「もう少し強くて、黙っていればいい男なのだがな。」

そっと、顔に青年の顔を隠すためつけてある仮面を外し、その顔にある大きな“傷の跡”をしばらく優しく撫でたあとまた仮面を付けた。

「…“グラハム”　か。少しだけ考えてみるか。」

夕暮れ時
医務室に行く『運ぶ人』と『運ばれる人』は共に口元に笑みを浮かべ幸せそうな顔をしていた。

その時、グラハムが起きていたのがバレて、また、あばらを折られのは怪我が完治した数日後の話。

ブシドー参る！？（後書き）

褐色ｌｏｖｅっす！
他の人も混ぜて行きますが褐色路線でいきたいと思います。

感想お願いします。感想が書こうっちゅう意欲になります（＾。＾；）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8318s/

フリージングな転生者

2011年10月8日02時35分発行